

令和7年度 第2回 鈴鹿市立千代崎中学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和7年 6月 9日(金) 15:00 ~ 16:00

2 場 所 千代崎中学校 図書室

3 あいさつ(学校長、委員長)

【委員長】

・重要な議題について多角的な視点からご意見を出し合い、充実した会議となるように協力を願いたい。

【学校長】

・生徒が安心、安全に学校生活を送れるように学校運営協議会の場で熟議をお願いしたい。

4 協議内容

(1) 教育委員会より校区再編に係る説明および質疑応答

●教育委員会による説明

- ・本市としては「連携」から「一貫教育」へ系統的な教育を進め、自律した学習者を育てることをめざしたい。
- ・円滑な幼小中の接続を見据え、中学校区を基盤とした幼小中一貫教育を進めていく計画である。具体的には令和12年度を区切りに校区の見直しを実施したいと考える。
- ・小中一貫を進めるために、小学校から同一中学校への進学が基本となるため、本校の校区に関しては若松小学校の進学先を整理する必要がある。
- ・若松小の就学指定校を大木中のみにすると、大木中が小規模校になることを避けることもできる。なお、若松小の就学指定が大木中のみになっても本校は適正規模校の状態が継続される。

●委員からの質問や意見

- ・若松小の生徒が全員大木中に通学する場合、一番遠い生徒で通学距離はどれくらいになるのか。

→南端の生徒で約4キロとなる。そのため通学路の整備も必要となる

- ・校区再編において移行期間は設定するのか。過去に桜島小の校区再編では移行期間があったと思う。兄弟関係がある場合は制服の問題などもあるので。

→制服や学用品の観点からも兄弟関係は校区再編において重要な視点である。共通学

区の期間を設定することも検討していく。

・校区再編により大木中が小規模校になることを避けるねらいもあるとのことであるが、小希望校によるデメリットは何かあるのか。

→一番に考えられるのはどうしても他者との関わりが少なくなるという問題である。しかし、裏を返せば、教員が丁寧に一人ひとりを見取ることができるというメリットでもある。総合的に判断して、本市としては適正規模の学校の中で幼小中一貫教育を整備していきたい。

・若松小の児童は中学校進学時に大木中と千代崎中に分かれるため、保護者としては同一小学校の児童全員が同一中学校へ進学できたらという思いはある。ただし、移行期間が必要だと考える。

・最終的には玉垣小と千代崎中の1小1中になるのか。

→そのような見通しである。玉垣小の児童数は今後の推計では増加する見通しである。

(2) 学力の実態について

3年生全国・学力学習状況調査の自校採点（抽出1クラス）と1・2年生みえスタディチェックの数値結果を委員に伝えた。なお、両調査とも県平均と同程度であった。

(3) 学校自己評価について

・学校長より本年度の学校自己評価の取組項目について具体的取組を交えて説明を行った。

評価項目：①学力×ICT、②長期欠席対策、③非認知能力育成、④地域連携、
⑤学校における働き方改革、⑥人権教育

なお、評価項目については文書による説明だけでは具体例をイメージしにくい部分も大きいため、今後の学校運営協議会で文化祭の参観、授業見学など生徒の実態を見ていただく機会を設定することを伝えた。

(4) 生徒の様子を含めた情報交換

・学校としては生徒の現状・実態を受け入れて、粘り強く指導していくことを基本方針としている。授業に入れない生徒もいるが学年の枠を超えて、いろいろな教員が関わっている。

→良いことをした時、頑張っている時を見逃さず、その子をほめてあげて欲しい。

・体育祭は残念ながら天候に恵まれず全校での開催は中止となったが、学年開催の際は平日にも関わらず多くの保護者に参観いただけた。また、学年単位での開催のため、保護者の皆様にはより近い場所で生徒が活動する様子を見てもらえたのは良かった。

- ・6月10日(火)に NASA の研究員を招いた理科教育兼キャリア学習を3年生で実施する。キャリア教育を推進するにあたり外部人材の活用にも取り組んでいきたい。

- 今後自分の進路を決定しないといけない3年生にとって大変実りある取組だと思われる。是非とも他学年でもこのような機会を設けていただきたい。

- ・最近の子どもたちの課題は何か。

- トラブルが発生した際に自分たちで解決する力が弱まっていると感じる。また、人と適切な距離を保つことができずに、そこからトラブルに発生する事案もある。

5 CS アドバイザー講評

- ・本日提案があった学校自己評価については、前回の運営協議会で提案された「学校経営の改革方針」を具体化したものである。提案された視点から学校の教育活動を見取るとともに年度末に評価をお願いしたい。

- ・非認知能力の育成には自己肯定感の醸成が必要となる。その為には周囲がいかにして子どもたちを肯定的に評価していくのかが大切である。本日の情報交換を聞いて、千代崎中学校では一人ひとりの子どもを大切にしている姿が見られた。

- ・学校運営協議会で熟議された内容については、教職員にしっかりと環流していただきたい。